



誠実な生き方

## 29 裏庭での出来事

けんじ  
健二だいすけ  
大輔ゆういち  
雄一

チャイムが鳴り、給食時間が終わった。食器を片づけると、校庭に向けてみんな一斉に飛び出していった。サッカーボールを持った健二を、大輔と雄一が誘った。



「健二、裏庭でやろうぜ。」

「ええっ、裏庭はまずいよ。」

健二はそう答えてはみたものの、

「またこの前みたいに、先輩にボールを取られたらどうする

んだよ。」

と大輔に言われては、返す言葉がなかった。

三人で体育館の裏の「裏庭」に行くと、さすがに誰もいな

かった。

突然、大輔が「あっ。」と声を上げた。

「ほら、ほら、あそこ。」

大輔だいすけが指さす方を見ると、一匹いっぴきの猫ねこが、物置のきしたの軒下のきしたにある鳥の巣しんにゆうに侵入しようとしていた。巣の中には、まだ生まれて間もないひなが見えた。

（ああっ、どうしよう。）健二けんじがそう思った瞬間しゅんかん、雄一ゆういちが猫目ねこめ掛けてボールを投げていた。猫ねこは、ボールに驚おどろいて逃げた。しかし、次の瞬間しゅんかん、ガシャーンという音がした。雄一ゆういちが投げたボールが物置の窓に当たり、ガラスがはじけた。

「雄一ゆういち、よく助けたな。」

「でも、どうしよう。」

「仕方ないだろ。ひなを助けようとしてやったことなんだか

141-1

140-3

ら。先生に報告しに行けばいいよ。」

大輔だいすけは、ガラスを割ったことなど全然気にしていない様子だった。

「じゃあ、先生に報告してくるよ。」

職員室へ行こうとした雄一ゆういちに、大輔だいすけが言った。

「雄一ゆういち、そんなの後でいいよ。俺たちおれ、ひなの命を救うとい  
う、いいことしたんだぜ。少しぐらい遊んでも罰ばちは当たらない  
ぜ。」

「いや、いま行ってくるよ。」

雄一ゆういちは、大輔だいすけを振り切ふって職員室へと向かった。残された

健二は、ガラスの片づけを始めようとした。  
「健二、ちよつとだけやろうぜ。」  
大輔は、健二に向けてボールを蹴ってきた。二人は初め、軽く蹴っていたが、距離を取って強く蹴り始めた。そのうち健二が蹴ったボールが、



さっきの物置の方に飛んでいった。

（しまった。）と思ったときには、ガシャーンという音がして、ガラスが割れてしまった。見ると、さっき割ってしまったガラスの隣のガラスが粉々に飛び散っていた。

（どうしよう……。）健二は、そう思った。

そこに雄一が松尾先生を連れてきた。

「先生、ここです。」

雄一は、物置の窓を指した。

「ひなが猫に取られそうになったので、慌ててボールを投げてしまったのです。」

142-1

141-4

雄一ゆういちは、事情を説明し始めた。

「先生、雄一ゆういちはひなを助けようとしてやったことなんです。おかげであのひなが助かったんです。許してやってください。」  
大輔だいすけがすかさずそう言い添そえた。

「どうも、すみませんでした。」

雄一ゆういちは、深々と頭を下げた。

「よし、分かった。けがをしないようにして、ガラスの破片はへんを片づけておくように。終わったら、雄一ゆういちは、職員室へ来るように。」

そう言い残して、松尾先生まつおは職員室に戻もどっていった。

「おい、どういふことなんだよ。ガラスが二枚割れているじゃないか。俺おれがさつき割ったガラスの隣となりの、あのガラスは一体どうしたんだよ。」

雄一ゆういちは、大輔だいすけに言った。

「俺おれじゃないぜ。おまえが職員室に行ってから二人で遊んでいたら、健二けんじがガラスを割っちゃったんだよ。」

大輔だいすけは、そう説明した。

「健二けんじ、おまえ、やっちゃったのかよ。」

「ああ……。」

雄一ゆういちに言われて、健二けんじは力なく答えた。



「なんだよ、汚<sup>きた</sup>ねえなあ。二人  
でやったことを俺<sup>おれ</sup>の割<sup>わ</sup>ったガラ  
スに便乗<sup>べんじよう</sup>させて。おまえら、調  
子よすぎるぜ。」  
雄一<sup>ゆういち</sup>はとても怒<sup>おこ</sup>っているよう  
だった。  
「でも、俺<sup>おれ</sup>がうまく言<sup>い</sup>ってやっ  
たから、そんなにきつく怒<sup>おこ</sup>られ  
ずに済<sup>す</sup>んだんじゃないか。そん  
なに冷<sup>ひや</sup>たいこと言<sup>い</sup>うなよ。友達



143-2

142-4

じゃないか。」

大輔だいすけは、そう言うつとドリブルをしながら、校庭の方へ行ってしまった。

残された二人の間には気まずい雰囲気ふんいきが漂いただよ、無言のままだった。昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴った。

五時間目の授業は好きな英語だったが、健二けんじは全然身が入らなかった。

授業が終わり、サッカー部の練習に行つて、大輔だいすけに会つた健二けんじは、

「僕ぼく、先生に言いに行こうと思うんだ。」

と言った。

「いいよ、そんなこと。あの場で済んだことなんだから。」

「そんなこと言っただって……。」

健二けんじは後の言葉が続かなかった。

「いいか。俺おれを出し抜ぬいて先生のところになんか行くなよ。

俺おれの立場が悪くなるじゃないか。」

大輔だいすけは、ボールを持って健二けんじから離はなれていってしまった。

健二けんじは、練習が終わっても気が重かった。

健二けんじは、家に帰っても何もする気が起きなかつた。ベッド

に横たわり、天井てんじょうを眺ながめて何度も自問自答しながら、健二けんじは

考え続けた。

（僕は、僕自身はどうしたいんだろう  
う……。）

次の日、健二は学校に行くと、雄  
一に言った。

「僕、やっぱり松尾先生のところへ  
行ってくるよ。」

「おい。大輔は……。」

雄一は、大輔のことを気にしてい



144-1

143-5

るようだった。健二<sup>けんじ</sup>は首  
を横に振ると、一人で職  
員室へと向かった。

『中学校 読み物資料とその  
利用―主として自分自身に

関すること―』

文部省による

絵・小倉マユコ<sup>おぐら</sup>



空白ページ



学びを  
深めよう

## 裏庭での出来事

登場人物になる体験を通して、誠実な  
生き方について考えてみよう。

145-1

1

健二<sup>けんじ</sup>について、問題に  
感じたところはどこだ  
ろう。

2

体験してみよう

健二<sup>けんじ</sup>は家に帰ってから、  
どんなことを考えていた  
だろう。

健二<sup>けんじ</sup>になって  
考えてみよう。



3

考えて  
みよう

次の日、健二<sup>けんじ</sup>を職員室へ向かわせたものはなんだったのだろう。

4

自分に  
プラスワン

+1

今日学んだこと、気づいたこと、考えたことから、誠実な生き方とはどういふことか、まとめてみよう。

145-2



## 学びを深めるヒント

演技を見るとき、意見発表をするとき

●演技を見るときは、演技の上手下手ではなく、演技する人の表情やしぐさ、考え、気持ちに注目しよう。

- ・よく見る（表情や何げないしぐさなど）
- ・よく聞く（せりふや声の強弱、高低など）
- ・よく考える（行動したときの気持ちや理由など）

●意見発表は、次の流れで進めよう。

- ①演技を見ていた人は、感想や意見を発表しよう。
- ②演技した人は、登場人物の気持ちをどのように表現しようとしたか、また実際に演じてみた感想を発表しよう。
- ③演技から分かったことを、学級全体で深めよう。

